



つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを！



千葉県市民活動団体マネジメントセミナー第1回、第3回講座風景



千葉県市民活動団体マネジメントセミナー

団体の組織力を上げて、メンバーと支援者を増やすセミナーの第4、5回目。

柏市での開催です。

◆主催：千葉県 ◆後援：柏市 ◆企画・運営：NPOクラブ

《お問合せ・お申込み》：NPOクラブ

お申込みは、氏名、所属団体名、電話番号、Emailを添えて、NPOクラブ下記連絡先まで

団体の活動への理解と共感を得る
インターネット・コミュニケーション



ホームページ・ブログ・SNS講座

活動成果・効果が伝わる情報発信の効果的な手法を学びます！



・日時：2018年

1月23日(火)

13:30～16:30

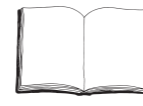
・場所：パレット柏(柏市民交流センター, 多目的A)

・講師：菅文彦さん(合同会社コース・アクション代表)

・定員：30名(1/18申込締切、先着順)

・対象者：市民活動団体メンバー、市民活動に関心のある人

団体の事業について
理解と信頼を得るために



事業報告書作成のための講座

事業内容と収支状況が読み取れる書き方を学びます！



・日時：2018年

2月15日(火)

13:30～16:30

・場所：パレット柏(柏市民交流センター, 多目的A)

・講師：早坂毅さん(早坂毅税理士事務所代表)

・定員：30名(2/9申込締切、先着順)

・対象者：NPO法人役員、スタッフ、法人設立を目指す人

⇒ 1月の行事予定 ⇐



平成29年度 福島県 福島ふるさとふくしま交流・相談支援事業「福島視察」

この春、福島県浪江町、富岡町で相次ぎ避難指示が解除されました(一部地域を除く)。そこで、被災地の現状を見て帰還された方のお話を聴き、これからの暮らしについて共に考えたいと、1泊2日のバス旅を企画しました。

東日本大震災で避難されている方20名定員の平成30年1月19日(金)～20日(土)の企画です。個人の希望にあわせて、2コース用意しました。

1つは、原発の状況を実際に自分の目で確かめたいという声を受けて「東京電力福島第一原子力発電所視察」、もう1つは、避難を経験後、南相馬市で野馬追の馬を育てている方のお宅訪問です。翌日は、富岡町内、浪江町内を視察し、避難先から帰還された方と交流します。

報告記事を次号に掲載予定です。



《編集・発行》 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: http://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npoclub1

f http://www.facebook.com/NPOclub t https://twitter.com/npoclub

・運営会員26名 賛同会員99名 発行1,000部 会員・県内外市民活動支援センター・自治体等に送付しています。



休眠預金を有効に活用するために ～社会的インパクト評価の必要性～

効果的に資金を活用するために必要な視点は

昨年度臨時国会で休眠預金活用法案が成立、2019年秋頃から交付開始予定としています。

また、休眠預金等活用審議会が設置され、基本方針策定に向けた地方公聴会も開催されました。

NPOクラブでは、この資金活用の対象とされている民間公益活動、ソーシャル・セクターである団体とともに情報収集や意見交換などをとおして千葉県での有効な活用を考えていきたいと思ひます。

県主催の千葉県市民活動団体マネジメントセミナーでは、「休眠預金活用による新たな資金循環の創出について～休眠預金活用と社会的インパクト評価の最新動向～」をテーマに嶋崎貴泰さん(日本ファンドレイジング協会事務局長、社会的インパクトセンター長)から話していただきました。その中で、社会的インパクト評価は、より効果的に資金を活用する上では不可欠な要素として取り上げています。

社会的な効果や成果こそが重要

「評価」と聞くと「監査」「査定」と誤解しがちですが、本来的には組織・事業の改善や関係者間の理解・信頼の向上につながるものです。社会的インパクト評価は、短期・長期の変化や当該事業・活動の結果として生じた社会的なアウトカム(効果、成果)を定量的・定性的に把握し、価値判断をするものです。

私たちは往々にしてアウトプット(直接の結果、事業量、成果物)を事業報告としがちですが、事業やサービスのアウトプットのみならず、その先にある受益者の変化や社会的な影響等を考慮・検討することが求められています。

また、アウトカムに至る論理的根拠を明確にするためには「ロジックモデル」が有用です。(ロジックモデルについては中面に)

これからの活動テーマとして、県内の団体といっしょに取り組んでいきたいと思ひます。

成果を出す事業のつくり方講座 —ロジックモデルを活用した事業計画づくり—

開催報告

NPOの社会的な役割を高めていくためにも、NPO自体が、事業成果を明確にしていくことが求められています。千葉県市民活動団体マネジメントセミナーの枠組みで、11/1、11/29に連続講座を開催しました。講師は、全国各地で活躍されている長浜洋二さん(株式会社PubliCo代表取締役CEO)。



ロジックモデルとは

- ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したもの
- 個々の事業がミッションの達成、及びビジョンの実現に繋がることを整理・確認することが狙い



課題解決の“設計図”

結果≠成果

結果は実施したこと。成果とは、働きかけた相手・対象の意識や行動、地域・社会の状態や状況の変革を起こすことです。

ビジョンとミッションを再確認

団体のメンバー間で、ビジョン(組織が目指す社会の状況)やミッション(ビジョンの実現に向けた組織の社会的な役割)を話す機会はありますか?日常の活動に追われて、活動・事業内容がビジョン、ミッションに沿っているかどうか確認、共有することをおろそかにしている団体が多いのではないのでしょうか。組織の内部・外部に対してビジョンを共有するために、誰もが簡単に理解できるように、「ことば」や「ビジュアル」「ストーリー」を活用することも大切。

ロジックモデル作成の流れ

- 手順① ビジョンとミッションを明確にする
- 手順② 中期・長期・短期的成果を考える
- 手順③ 事業を考える

コレクティブインパクトとは?

異なるセクターにおける様々な主体(行政、企業、NPO、財団など)が、変革に向けたビジョンを共有していることをベースに、お互いの強みを出し合いながら社会課題の解決を目指すアプローチ。既存の協議会では、最初から具体的な事業目標(ゴール)が定められていることが多く、成果が得にくい状況です。

ロジックモデル策定シート

講座のワークでは、団体ごとに模造紙を使って作成。団体のミッションと事業の成果を短期から長期にわたって確認することで、事業内容の見直しと事業の意義がメンバー間で共有できます。

投入資源	事業	主たるターゲット	結果	成果		ミッション	ビジョン
				短期	中期		
	事業の数だけ記載します	主たるターゲットを記載します				団体のミッションを記載します	団体のビジョンを記載します

受講者の声

- 団体内でのメンバー間の思いの共有や成果の共有等具体的な数値やわかりやすい言葉で学ぶことができました。
 - 立ち止まって活動を見直す時間を取ることの大切さを感じました。
- *受講 15 団体を対象に、フォローアップの場を持つ予定です。

ロジックモデルの実践事例 —再認識した地域での役割—

「地域おこし」「絆づくり」の拠点として

市原市南部で活動する「報徳の会」は、2015年から1年間、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金の事業指定プログラムでの寄付募集にあたり、ロジックモデルを使った伴走支援を受け、団体の事業を見直してきました。ロジックモデルをどのように活かしてきたか、事務局長の小出和茂さんにお話をうかがいました。



団体の設立動機は、築89年の「旧内田小学校木造校舎」を保存・活用したいと、買い取りを決めたことでした。地権者と売買契約を交わした後、傷んだ校舎の補修をしながら「内田未来楽校」としてオープンしました。地域内外の人たちが交流しあえる場を提供したいと活動を広げてきました。

ロジックモデルを作成して気づいたこと

- **社会的な役割** 校舎維持だけでなく、居場所として地域のために校舎を活かすことも重要だと、団体の2つのミッションを確認。
- **情報発信の必要性** 「校舎を保存したい」という自分たちの思いだけでは団体への理解は得られないと気づいた。
- **事業の方向性** 集客性・収益性を軸に事業を見直し、両方が見込める「貸館事業」に今後は力を入れるべきと気づく。そのためには、地域外への広報や他団体との連携が必要なのことがわかる。



設計図どおりの歩みですね!

1年後の成果を、設定した指標で計ってみると

SNSを毎日更新するなど広報に力を入れ、千葉県・市原市や他団体と連携した成果として、アートイベントなど地域内外からの来場者も増え、交流が進んだ。貸館の収益もアップし、校舎取得のための資金確保が進んだ。

■居場所としての活用状況を表す指標(昨年度→今年度)

1. 朝市出店者数、収益額(月平均) 13人、20,000円→15人、25,000円
2. 開校日数、開校率(年間) 204日、56% → 予定で222日、60%
3. 貸館日(年間) 11日 → 42日

■校舎取得の状況を表す指標

1. 土地代支払額累計は、返済計画どおり900万円のうち500万円支払い済み
2. 土地登記のためNPO法人化を目指し、今年12月認証申請した

「報徳の会」

〒290-0503 市原市宿174番地8
電話 090-2661-5567(事務局 小出さん)
Email: koide-k@nifty.com
https://uchidamirai.jimdo.com/